『かわ』

川崎市立末長小学校五年　森田（もりた）　りお

「この本には秘密があるんだよ」五歳のころに、母が言っていた。それから、私はずっと気になって仕方がなかった。でも、当時の私は、分からなかったし、母は何回聞いても教えてくれなかった。ただ、「いつか分かるといいね」と言うだけだった。

最近、図書館であの本を見つけた。お母さんが「今なら分かるかもね」と言った。手に取ってみた瞬間、私の目に表紙の記号が飛び込んできた。それは地図記号だった。すごく小さな地図記号が隠れているようだ。一ページ目をめくる。でも、表紙とは雰囲気が違う。地図記号が見つからない。めくってもめくっても、ただ川が上流から下流に向かっている景色が描かれているだけだった。

最後のページまでめくって本を閉じた。裏表紙にも地図記号と山々と川の上流が描かれていた。そこで私はひらめいた。裏表紙の地図の川の始まりと山の様子が初めのページと一致しているように感じて、また初めのページをめくった。川の始まりである雪の積もった山のページが広がっている。ページをめくるたびに、裏表紙と見比べる。下流に近づいてくると、町や工業地帯が広がっている。表紙の絵と同じだ。

その上、河口に描かれているページに工業地帯と飛行機と飛行場を見て、私は、感じた。「この川は多摩川みたい」私たちが住んでいる川崎のような気がして親近感を得た。

読めば読むほど新しい秘密が見つかるのではないかと思って何度もめくってしまう。そしてお母さんに「秘密、分かったよ！」と伝えたら、「見つけたの！」と笑っていた。みんなにも、秘密をワクワクしながら探してくれたらうれしいな。